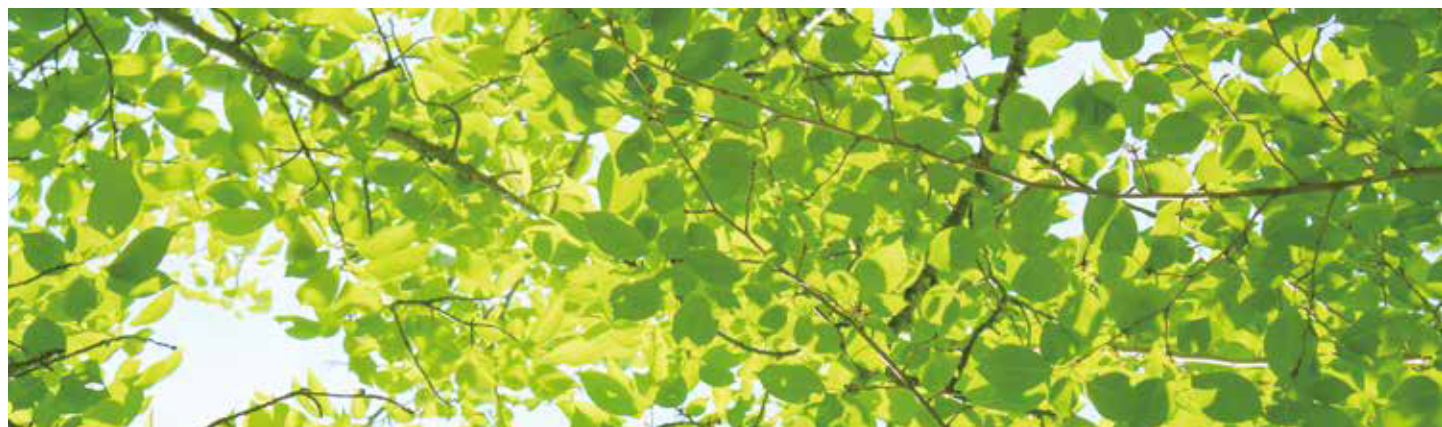




2025年度 CSRレポート

吉田グループ



発行日: 2026年8月1日
発行部署: 吉田プラ工業株式会社 NY-IS推進室

1. サステナビリティ方針（社会的責任に関する吉田グループ方針）



私たち吉田グループは、「お客様」「お取引先」「従業員」「社会」を含むすべてのステークホルダーと信頼関係を築くことで企業価値を高めるとともに、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

ー 基本方針 ー

1. お客様に喜ばれる高品質で安全な製品とサービスを提供します。
2. 従業員の安全を最優先し、人権を尊重するとともに、快適な職場環境を確保します。
3. 多様なステークホルダーとのコミュニケーションを強化し、健全な関係を構築、維持します。
4. 環境保全に配慮した事業活動を推進します。
5. 法規制を順守するとともに、地域の慣習・文化を尊重します。
6. 情報資産を適切に保護し、管理することに努めます。

サステナビリティ推進体制

NY-IS推進室（サステナビリティ推進部署）を中心に、室長である代表取締役社長の監督のもと、全吉田グループ横断で、取組みを推進してまいります。定期的に目標・指標の進捗を確認し、継続的な改善を図ります。

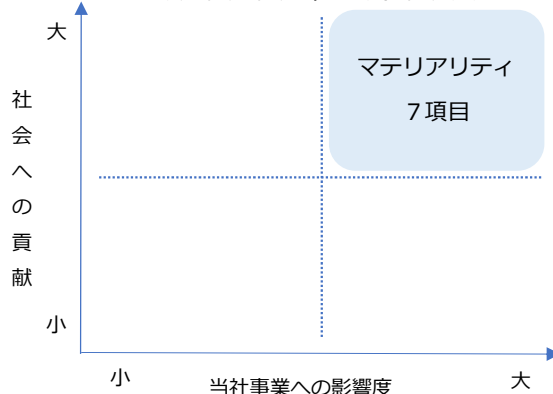
2. マテリアリティ(重要課題)

吉田グループは、事業を通じた社会課題の解決と企業価値向上のため、ステークホルダーとの対話および外部環境・自社の経営資源を踏まえ、7つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。

マテリアリティ特定プロセス

- 1 課題の抽出
↓
SDGs・国際的なガイドライン・業界動向の分析
↓
SWOT分析によるリスクと機会を特定し課題を抽出
- 2 ステークホルダー調査
↓
お客様・従業員・取引先・地域社会との対話
- 3 重要度の評価
↓
「社会への貢献」と「当社の事業への影響」の2軸で評価
- 4 経営会議での審議・承認
↓
役員会での承認を得て特定

マテリアリティ・マトリクス



特定したマテリアリティ

マテリアリティ	関連するSDGs	主な取組み	2030年目標(KPI)
① 気候変動対策と脱炭素社会への貢献	 	・省エネルギーの推進 ・再生可能エネルギーの拡大 ・サプライチェーンと連携したCO2削減	・Scope1+2を2018年度比50%削減
② 循環型社会の実現とプラスチックの有効活用	  	・再生材、バイオ材の利用拡大 ・リサイクルしやすい製品設計 ・廃棄物の削減と再資源化の推進	・リサイクル原料配合樹脂 適用対象製品 対応可能率100% ・プラスチック製品化率 90% ・廃プラリサイクル率 98%
③ 人権の尊重と多様性の推進	  	・人権デュー・ディリジェンスの実施 ・ダイバーシティ＆インクルージョンの推進 ・働きがいのある職場づくり	・人権問題発生件数 0件 ・人権教育受講率 100%
④ 安全・安心な職場と従業員の健康	 	・労働安全衛生の徹底 ・心身の健康支援、健康経営の推進	・労働災害発生件数 0件 ・健康経営優良法人認定 維持
⑤ 持続可能な調達とサプライチェーン管理	  	・サプライヤー行動規範の遵守・浸透 ・サプライヤーのESG評価と支援強化	・サプライヤー行動規範同意率100% ・主要サプライヤー監査実施率100%
⑥ コンプライアンスとガバナンスの強化	 	・コンプライアンスおよび情報セキュリティに関する教育の実施 ・リスク管理体制の強化	・重大なコンプライアンス違反ゼロ ・コンプライアンス教育 受講率 100%
⑦ 社会との共生と地域社会への貢献	 	・地域との対話・共生 ・次世代への貢献 ・環境保全活動の推進	・社会貢献活動 参加率 100%/拠点

3. リスク・機会分析（気候変動）



TCFDの枠組みに基づき、気候変動に関するリスクと機会を特定し、シナリオ分析を行いました。
その結果を戦略やリスク管理に反映しています。

リスク					
区分	主なリスク	影響の内容	時間軸	財務影響	対応策
移行 リスク	政策・規制強化	炭素税の導入 製品・サービスに対する規制の強化	中期	コスト増	省エネ・再エネ導入 排出量削減 原材料切替、ロス削減に向 けて試験研究費投入
	技術変化	低炭素技術への移行遅れによる競争力低下	中期	売上減	環境配慮製品の開発、 技術投資
	市場変化	お客様の環境要求の高度化 取引条件にESG対応の追加 原材料コストの増加	中期～長期	売上減	エコデザイン、 人件費コンサル費用投入 技術開発
	評判リスク	産業セクター(プラスチック製品)への非難	長期	売上減	情報開示の強化、 設備投資(省人化)
物理 リスク	急性リスク	豪雨・台風等による操業停止 サプライチェーン寸断	中期	コスト増	BCP強化、 工場間連携による生産継続
	慢性リスク	気温上昇による操業コスト増 水ストレス等による操業停止	中期～長期	コスト増 売上減	空調設備導入 工場間連携による生産継続

機会				
区分	影響の内容	時間軸	財務影響	取組み
資源効率	省エネ・再エネ導入によるエネルギーコスト削減 持続可能な資源の活用	長期	コスト減 売上増	再エネ拡大、設備更新 ISCC PLUS認証の取得
製品・サービス	環境配慮製品の需要拡大	長期	売上増	再生材製品の拡充、 技術開発
市場	サステナブル対応による取引機会の増加 地産地消的調達の拡大	長期	売上増	ESG関連情報の開示 サステナビリティ研修 営業スキル向上
レジリエンス	BCP強化による事業継続性の向上 支援的政策のインセンティブ使用 バックアップ資材承認の標準化	中期～長期	売上増 コスト減	拠点分散 設備更新・試験研究費投入

※リスク・機会は定期的に見直しを行い、戦略・目標への反映および反映および情報開示の充実に努めてまいります。

シナリオ分析の前提

1.5℃シナリオ
(IEA NZE 2050)

4℃シナリオ
(IPCC RCP 8.5)

分析期間 ～2030年（中期） 2030～2050（長期）

主な指標 CO₂排出量、エネルギーコスト、原材料コスト、売上高 等

4. 労働・人権・持続可能な資材調達・倫理



		2023年度	2024年度	2025年度
●4-1.人権・労働・多様性				
人権問題 発生件数（児童労働、強制労働）	[件]	0	0	0
差別・ハラスメントに関する問題発生件数	[件]	0	0	0
女性従業員の割合	[%]	67.4	70.8	65.3
管理者女性割合	[%]	22.0	24.8	16.0
障がい者雇用率（従業員数40人以上の日本国内拠点）	[%]	1.9	1.6	1.9
●4-2.労働条件・社会対話				
社会保険加入従業員数の割合	[%]	100	100	100
就業規則・労働協約および個別契約等による労働条件が適用されている従業員の割合	[%]	100	100	100
団体交渉を行う 組合・代表者委員会の対象となる従業員の割合	[%]	83	73	84
●4-3.キャリアマネジメント・教育				
定期的な業績とキャリア開発に関する考課を受けた従業員の割合	[%]	83	73	84
従業員一人当たりの平均研修時間	[h]	8.26	5.69	11.87
●4-4.安全衛生				
労働災害事故発生件数	[件]	10	7	5
労働安全衛生に関する研修実施率	[%]	100	100	100
労働災害度数率	[-]	3.32	0.82	1.00
労働損失日数	[日]	37	5	71
労働災害強度率	[-]	0.01	0.00	0.02
●4-5.倫理				
倫理問題に関する研修を受けた従業員数	[人]	1,577	974	1,179
内部通報制度による報告数	[件]	0	0	0
確認された腐敗行為の件数	[件]	0	0	0
●4-6.持続可能な資材調達				
サプライヤー行動規範 同意書取得状況	[%]	100	100	100
●4-7.情報セキュリティ				
情報セキュリティインシデント発生件数	[件]	0	1	1

『Sedex（Supplier Ethical Data Exchange）』会員



吉田グループは、Sedexにサプライヤー会員として登録し、持続可能なサプライチェーンの構築に積極的に取り組んでいます。Sedexの会員として、労働・人権、環境への影響、倫理的なビジネス慣行に焦点を当て、透明性と持続可能なビジネスパートナーシップの確立に貢献しています。

『Ecovadis』コミットメント・バッジ取得

当グループは、サステナビリティ活動を評価する機関Ecovadisによる評価を受けています。エネルギー使用量の削減、廃棄物の管理・削減などの環境負荷軽減活動や、労働と人権、倫理などのサステナビリティ活動に取り組み、2026年5月、コミットメント・バッジを獲得しました。

引き続き更なる向上を目指し活動を続けてまいります。

5. 環境活動

CDP2025 『気候変動』 及び 『水セキュリティ』 Bスコア取得



当グループは、国際的に企業等の環境への取組みを評価し、開示を行う

NGO（非政府組織）であるCDPの質問書『CDP2025』に回答し、『気候変動』

及び『水セキュリティ』で、それぞれ「B」スコアを取得しました。（2025年12月）

CDPにおいてBランクは、マネジメントレベルとされ、「環境リスクやその影響に対するアクションをとっており、環境リスクを無くそうとしている企業」と評価されたことを示すものです。

今後も水リスクの低減を含め、気候変動対策を推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

● 5-1. 環境関連データ（2025年度）

INPUT

エネルギー使用量

⚡ **19,750 MWh**

再生可能エネルギー

再エネ由来Jクレジットの調達・償却分を含む

☀️ **582 MWh**

使用した樹脂原材料

🗑️ **4,649 t**

使用したリサイクル樹脂原材料

🗑️ **604 t (13 %)**

OUTPUT

エネルギー使用に伴う

温室効果ガス(CO₂)排出量

11,664 t-CO₂

(Scope1 **156 t-CO₂**)

(Scope2 **11,509 t-CO₂**)

エネルギー使用量 [MWh]



水使用量

💧 **71 M t**

一般及び産業廃棄物発生量

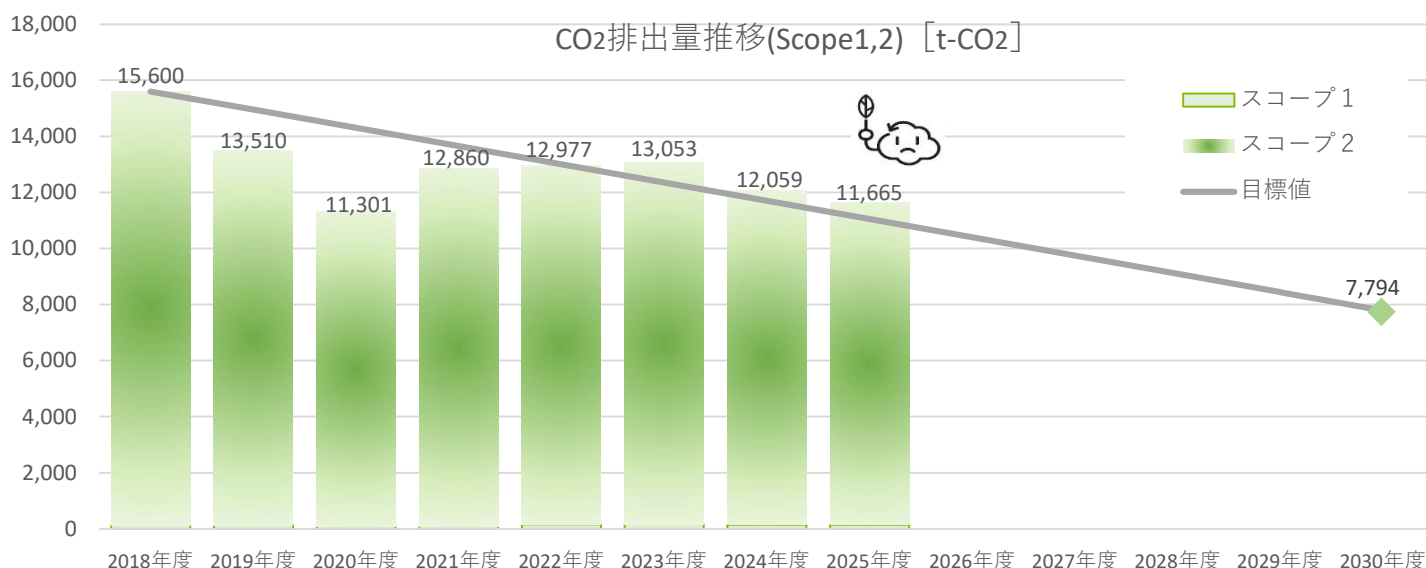
🗑️ **658 t**

廃プラリサイクル総重量

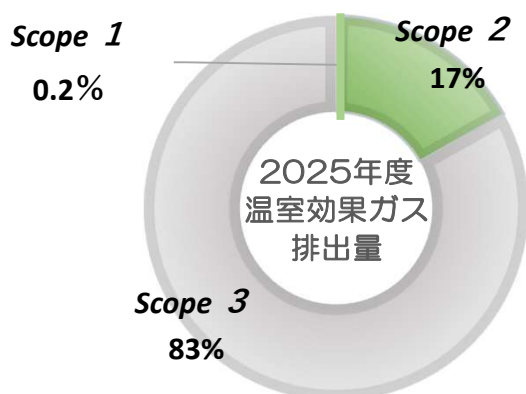
♻️ **1,001 t**

● 5-2. CO₂排出量（Scope1 + 2）削減目標

目標値（2018年度比）： 2030年度までに50%削減



● 5-3. サプライチェーン温室効果ガス(CO₂)排出量



《内訳》

当グループのサプライチェーン温室効果ガス排出量の構成として、Scope 3 の排出量が83%と最も多く、中でもカテゴリー1購入した製品・サービスに伴う排出量が大半（約74%）を占めています。

単位[t-CO₂]

CO ₂ 排出量	Scope1,2,3	2018年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
Scope 1		138	109	162	173	151	156
Scope 2		15,462	12,750	12,814	12,881	11,908	11,509
Scope 3		90,981	59,076	65,363	61,091	54,197	57,556
カテゴリー 1	購入した製品・サービス	82,247	50,881	56,621	54,974	46,635	51,185
カテゴリー 2	資本財	3,616	4,215	4,563	1,637	2,424	929
カテゴリー 3	スコープ 1, 2 に含まれない 燃料及びエネルギー活動	1,737	1,521	1,506	1,513	1,443	1,367
カテゴリー 4	輸送、配送（上流）	1,890	1,272	1,514	1,749	2,586	2,905
カテゴリー 5	事業から出る廃棄物	370	287	245	257	220	209
カテゴリー 6	出張	245	201	205	214	197	213
カテゴリー 7	雇用者の通勤	868	693	704	742	683	740
カテゴリー 12	販売した製品の廃棄	8	6	5	6	8	8

6. 【地域社会・次世代への貢献（社会貢献）】

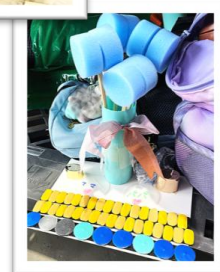


ものづくりの端材が、子どもの豊かな創造性を育む「宝」へ ～ 墨田区「あそび大学」への資材提供パートナーシップを継続 ～



当社グループは、子育て支援の一環として、東京都墨田区で開催されている体験型学習プログラム「あそび大学」への製造資材・端材の提供を行っています。

当社を含め墨田区の工場から提供された布、紙、ウレタン、プラスチック、金属などの素材が、運営チームによって「すみだから（墨田の宝）」と名付けられ、子どもたちの自由な遊びと学びを支えています。今後もものづくりの楽しさを伝え、地域の未来を応援します。



墨田区あそび大学の運営スタッフの皆様へ
心を込めて製造資材をお渡ししました。

📍 TOPICS：「あそび大学」が内閣総理大臣賞を受賞！

地域資源の活用と子どもの主体性を育む優れた活動が評価され、
「第18回キッズデザイン賞」にて最優秀賞を受賞されました。

7. 【従業員のウェルビーイング（健康経営）】

従業員一人ひとりの「健康」を企業の重要な経営基盤に ～ 多角的なアプローチにより「健康経営優良法人2026」に認定 ～

当社グループは、従業員の健康が持続可能な成長の基盤であると考え、専門家を招き生活習慣病対策を強化。アプリを使った「社内ウォーキング大会」では、部署を超えたコミュニケーションの活性化にも繋がっています。

さらに社食での「健康増進メニュー」の提供や、月1回の健康チェック測定会を継続。

2024年の健康優良企業「銀の認定」に続き、

2025年3月には 経済産業省より

「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」に正式認定され 2026年も連続して認定されています。



大好評だった健康増進メニュー「大豆のキーマカレー」
当日食べられなかった社員にはレシピも配信



🏆 信頼の証：「健康経営優良法人2026」に認定！

吉田ブラ工業(株)・吉田コスメワークス(株)・(株)吉田のグループ3社は、特に優れた健康経営を実践している企業として顕彰されました。

8. その他の活動（一例）



*CSR他 研修



*救命講習



*健康経営



*高照度LED化完了（天津）



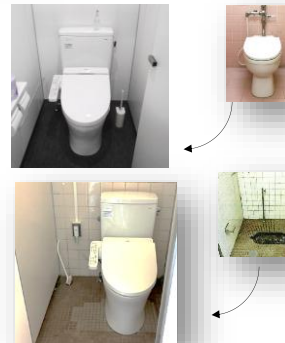
*社会貢献活動 <献血>



<インターンシップ>



*水使用量削減措置



<SAKUメッセ出展>



<出前授業>



*外部委託先様 訪問による 現地視察



<あそび大学（素材提供）>



GRI内容索引 (GRI Content Index)

【GRI参照の宣言】

吉田グループは、2025年度（2025年4月～2026年3月）のサステナビリティ・CSR情報を、GRIスタンダードを参照して報告しています。

■ ユニバーサルスタンダード（共通・方針項目）

使用しているGRI基準	開示事項（項目名）	章・掲載箇所
GRI 1: 基礎 2021	(上記宣言文の掲載をもって対応)	巻末（本ページ）
GRI 2: 一般開示事項 2021	2-9 ガバナンスの構造と構成	1章「サステナブル推進体制」
	2-22 持続可能な開発戦略に関する声明	1章「社会的責任方針」
	2-26 助言を求めるためのメカニズムおよび懸念を提起するためのメカニズム	4章「コンプライアンス / 内部通報制度」
	2-29 ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	2章「マテリアリティ分析」
	2-30 団体交渉協定	4章「人権・労働 / 労働条件・社会対話」
GRI 3: マテリアル項目 2021	3-1 マテリアル項目を決定するプロセス	2章「マテリアリティ分析」
	3-2 マテリアル項目のリスト	2章「マテリアリティ分析」
	3-3 マテリアル項目のマネジメント	3章「リスクと機会」

■ 経済・環境スタンダード（200・300シリーズ）

使用しているGRI基準	開示事項（項目名）	章・掲載箇所
GRI 205: 反腐敗 2016	205-2 反腐敗方針および手続きに関するコミュニケーションと研修	4章「コンプライアンス教育」
	205-3 確認された腐敗事例と講じた措置	4章「倫理・コンプライアンス実績」
GRI 302: エネルギー 2016	302-1 組織内のエネルギー消費量	5章「環境：電力・化石燃料・再エネ」
GRI 305: 排出 2016	305-1 直接的なGHG排出量（Scope 1）	5章「環境：温室効果ガス排出量」
	305-2 間接的なGHG排出量（Scope 2）	5章「環境：温室効果ガス排出量」
	305-3 その他の間接的なGHG排出量（Scope 3）	5章「環境：温室効果ガス排出量」
GRI 306: 廃棄物 2020	306-3 発生した廃棄物	5章「環境：産業廃棄物・再資源化率」
GRI 308: サプライヤーの環境面の評価 2016	308-1 環境基準を用いてスクリーニングされた新規サプライヤー	4章「持続可能な資材調達：サプライヤー行動規範」

■ 社会スタンダード（400シリーズ）

使用しているGRI基準	開示事項（項目名）	章・掲載箇所
GRI 401: 雇用 2016	401-1 新規雇用者と従業員の離職	4章「人権・労働：採用・離職率」
	401-2 正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	4章「人権・労働：社会保険加入」
GRI 403: 労働安全衛生 2018	403-5 労働安全衛生に関する労働者研修	4章「労働安全衛生：研修実施率」
	403-6 労働者の健康増進	7章「健康経営」
	403-9 労働関連の傷害	4章「労働安全衛生：発生件数・強度率・損失日数」
GRI 404: 研修と教育 2016	404-1 従業員1人当たりの年間平均研修時間	4章「キャリアマネジメント・教育」
	404-3 業績およびキャリア開発に関する定期的なレビューを受けている従業員の割合	4章「キャリアマネジメント・教育」
GRI 405: ダイバーシティと機会均等 2016	405-1 ガバナンス機関と従業員のダイバーシティ	4章「人権・労働：女性・障がい者比率」
GRI 406: 非差別 2016	406-1 差別事例と講じられた是正措置	4章「人権・労働：差別ハラスメント件数」
GRI 407: 結社の自由と団体交渉 2016	407-1 結社の自由および団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	4章「人権・労働：団体交渉・社会対話」
GRI 408: 児童労働 2016	408-1 児童労働の事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	4章「人権・労働：人権問題発生件数」
GRI 409: 強制労働 2016	409-1 強制労働の事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	4章「人権・労働：人権問題発生件数」
GRI 413: 地域コミュニティ 2016	413-1 地域コミュニティへのエンゲージメント、影響評価、開発プログラムを実施している事業所	6章「社会貢献活動」
GRI 414: サプライヤーの社会面の評価 2016	414-1 社会的基準を用いてスクリーニングされた新規サプライヤー	4章「持続可能な資材調達：サプライヤー行動規範」
GRI 418: 顧客プライバシー 2016	418-1 顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して、具体化した不服申立	4章「情報セキュリティ」



YOSHIDA

